

東海道五十三次を往く

第26回

長く旅してきた東海道五十三次の旅は、いよいよ三河最東の宿場町に。古の情緒を楽しみながら、往時の面影を残す街道を歩きました。



レトロな雰囲気を醸すホーロー看板。「味噌溜」とは、味噌を作る過程で生まれるエキスのようなもの。

西駒屋田村家住宅母屋

事業に成功した駒屋は、東駒屋と西駒屋という分家を持ち、現在も数棟の建物が残っている。西駒屋田村家住宅母屋はその一つで、国の登録有形文化財に指定されている。



東問屋場跡
宿場を利用する大名のために、必要な人や馬を用意する大切な役割を担っていた問屋場。現在はその跡に石碑が立つ。



貴重な建物の数々が
風情ある街並みを彩る
東海道らしい風情が漂う二川宿。2力所しか現存していない本陣の遺構や、江戸時代の商家である駒屋と、その分家である東駒屋、西駒屋の建物など、狭いエリアに貴重な見どころが点在する。本陣は現在資料館として整備され、大名や公家が利用した宿舎を公開。隣には、一般庶民が利用した旅籠屋「清明屋」も復元され、江戸時代に敷かれていた身分制度を、宿泊設備の違いで体感できるのも面白い。

弥次さん、喜多さん
みたいでしょ

商家「駒屋」

明和5(1768)年頃に創業し、米穀商と質屋の兼業で大成長を遂げた商家。駒屋を営むかたわら、宿村役人を務めて財を成した田村家の貴重な遺構を公開している。母屋、離れ座敷、脇門、茶室、南土蔵、中土蔵、北土蔵、北倉の8棟の建物からなり、当時の商家の形式をよく保存している。

愛知県豊橋市二川町字新橋町21
☎0532-41-6065
営9時~17時
休月曜(祝または振休の場合は翌日)、
12/29~1/3



豊橋市二川宿本陣資料館

大名や公家などの貴人が利用する宿であった「二川宿本陣」と、江戸時代の街道や宿場、本陣、大名列などについて広く学べる「二川宿本陣資料館」、さらに庶民が利用した旅籠屋「清明屋」の3エリアからなる。現存する本陣は非常に貴重な史料。本陣らしい格式ある佇まいを見せている。

愛知県豊橋市二川町字中町65
☎0532-41-8580
営9時~17時(最終入館は16時30分)
休月曜(祝または振休の場合は翌日)、12/29~1/1



街道側の入口から最も奥に位置する書院棟は、当時の資料などに忠実に復元されたもの。大名など高貴な身分の人物が宿泊する上段の間などがあり、一層落ち着いた雰囲気。



山崎精肉店
愛知県豊橋市二川町字中町60-1



体験コーナーでは、当時の旅人の衣装を纏って記念撮影もできる。



いよいよ
愛知県!

